

はじめに

かつて株といえば、株式投資 = ギャンブルというイメージがありました。証券会社が株屋と呼ばれた時代もありました。いまも、銀行が身近であるのに対して、証券会社はやや怪しげであると感じている人もいるかもしれません。しかし、いうまでもなく銀行と同じように証券会社も経済社会にとってなくてはならない存在です。

そもそも、証券会社の「証券」とは保有者の権利を証明する証書のことです。経済社会の血液とも言えるお金を循環させる役割を担っているのが株式や債券といった証券です。企業や国、地方自治体などお金を必要とするところが証券を発行し、お金が余っている個人や企業などがその証券を買うことで資金が循環するわけです。株式や債券などの証券の流通を担っているのが証券会社なのです。

また、株式投資とは、一言でいえば株式会社に投資することです。出資者（投資家）がいなければ、企業は存在できず経済は成り立っていきません。

新聞には株式欄があり、テレビのニュースでは毎日株価の動きを知らせています。もちろん、これは投資家だけに向けたものではありません。株価が経済の動向、ひいてはわたしたちの生活に密接に結びついているからです。

「株価は景気を映す鏡」とよく言われます。一般に、株価は景気の先行きを映します。株価を知る意味はここにもあります。

ビジネスパーソンであれば、自社の株価はもちろん、同業者などの業界企業の株価、取引先の株価の動きを見るための知識は最低限必要です。

株式の知識をもつことは経済のしくみを理解するうえでも、日常の仕事を進めるうえでも不可欠なのです。

本コースでは、株式について、だれもが知っておくべき基本的な知識から、株式投資の実践知識までを解説しました。業界や業種を問わず、必要な知識が身につくように編集しています。

株式の知識を身につけ、仕事や実生活に役立てていただけましたら幸いです。

株式とは何か？

学習のポイント

POINT ① 株式とは、株式会社に出資したことを証明する有価証券。

POINT ② 出資者は会社の事業がうまくいくかどうかで、もうかったり損をしたりする。

株式会社は、出資者から資金を集め、そのお金を使って行ったビジネスの利益を出資者に分配するというしくみになっています。その際、出資したことを証明するために発行する有価証券が株式です。一般には株と呼ばれます。

イギリスでは株式のことをシェア（持ち分を分ける）といいます。つまり株式会社は、みんなで出資して利益を分かち合うことを目的としており、その出資単位が株式なのです。このような株式の基本は、会社の始まりを知るとよく理解できます。

株式がいつどこで登場したかにはさまざまな説がありますが、一般的に知られているのは17世紀初頭のオランダの東インド会社です。

東インド会社は1602年に設立された海運会社で、東南アジア地域の繊維（綿、絹など）や香辛料の貿易権を独占していました。当時、ヨーロッパで珍重されていたこれらの物産を輸入して販売することで、莫大な利益を得ていたのです。しかし、当時は貨物輸送機や大型貨物船のない時代です。商品を積んだ船が海賊にあたり、嵐に巻き込まれて難破したりして、取引が成り立たないこともしばしばでした。

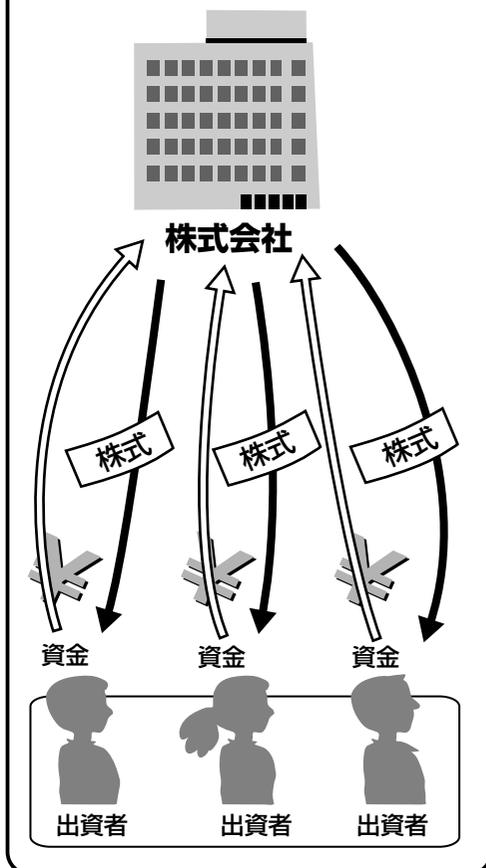
難破したら莫大な損失を被ります。しかし、もし資金を分散して出し合えば、分け前は少なくなりますが、個人が莫大な損失を被ることはなくなります。そこで考え出されたのが、株式会社のしくみだったのです。

みんなに分散するといっても、当時、出資者の対象となったのは裕福な貴族に限られ、

一取引で莫大なお金を得るか、船が難破してゼロになるか、というハイリスク・ハイリターンでした。

今日の株式会社は、お金を出す株主もたくさんいるので、昔ほど危険ではありません。しかし、会社の事業にお金を出し、うまくいくかどうかでもうかったり損をしたりするという株式の本質はまったく同じです。

●株式会社と出資者



1

そもそも株って何？

株券とはどんなものか？

学習のポイント

POINT 1 株券とは、株主であることを証明する証書のこと。

POINT 2 株券には「額面株」と「無額面株」の2種類がある。

株式会社は出資者が集まってつくられる会社です。出資者はその出資額に応じて株式を持つこととなります。もし、大きなビジネスをやろうと思えば、たくさんの資金を集める必要があります。

そこで、株主を募るために発行するのが株券です。株券とは「株主であることを証明する証書」のことで、売ったり買ったりできる有価証券です。

株券には、発行時の価格が書かれている「額面株」と価格が書かれていない「無額面株」がありました。

現在、日本で発行されているほとんどの株券は「額面株」で、額面金額は50円です。このほかの額面としてはNTT、JR東日本、日本たばこ産業などの5万円があります。東京電力の500円というものもあります。

50円額面は明治時代に商法で定められたもので、その後のインフレによって実態にそぐわなくなったため、1982年からは新たに設立される会社について、額面は5万円以上と決められました。

額面金額は実際に売買される価格とは異なり

ます。株券は、その株式を買い手が多ければ価格が上がり、買い手が少なければ価格が下がります。

一方、「無額面株」とは文字通り1株50円、500円などと、金額が記載されていない株券のことです。総発行株式数に対してどのくらい株券を持っているかが、その株券に対する価値となります。

無額面株も額面株と同様に、買い手が多ければ価格が上がります。無額面株は、1株を2株にするなどの株式分割がしやすいので、株式が広く流通しやすいというメリットがあります。

株券はこれまで株式会社が印刷し発行してきましたが、2009年1月からはすべての株券が電子化される予定です。従来の株券を持っている人は、証券保管振替機構に預託し、今後は電子マネーのような形になります。株主にとっては盗難や紛失の危険が、発行会社にとっては印刷コストがなくなるのがメリットです。

●2種類の株券



額面株 (発行時の価格が書かれている)

日本で流通している株券の多くが額面50円 1982年以降設立の会社は額面5万円以上

無額面株 (価格が書かれていない)

総発行株式数に対する保有株式数が、株主権の効力の基礎になる

株主とは何か？

学習のポイント

POINT 1 株主とは、株式を保有する投資家のこと。

POINT 2 株主の目的はキャピタルゲインと配当金。

株主とは、株式を保有する投資家のことです。もし、保有株数その企業が発行する株式の最低単位であっても株主であることに違いありません。

ある企業の株式を最も多く保有している株主を筆頭株主といいます。大企業の筆頭株主は多くの場合、主要取引銀行、系列会社、取引会社、創業者などです。

日本では、一般投資家はさほど多くはありませんが、アメリカでは国民の多くが株式投資をしています。資産の運用法としては、日本では株式投資より預貯金が主流です。では、預貯金をすることと株主になることは、どう違うのでしょうか。

銀行は、私たちから集めた預金を企業や個人に貸し出し、その利子の一部を私たち預金者に還元します。預けたお金は銀行がなくなればかぎり保証されます。これに対して、株主になるとは、法的にはその会社の構成員になることを指しています。しかし、通常

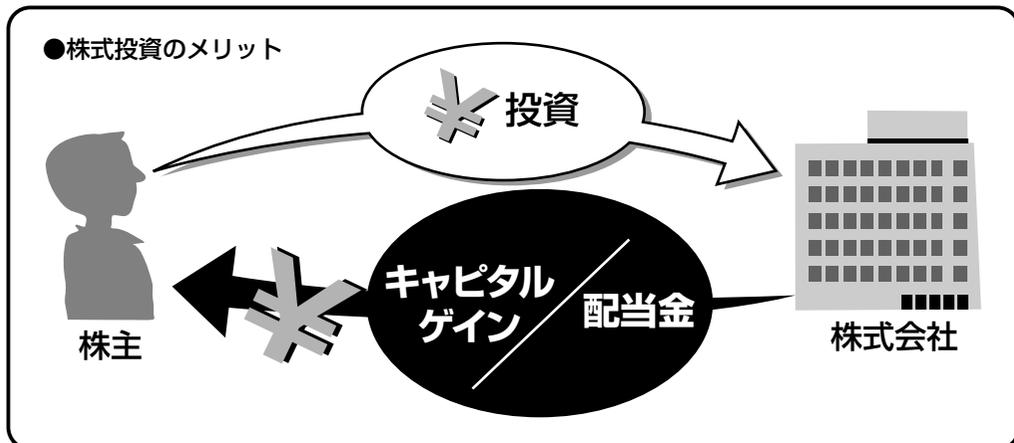
は経営に参加したり社員になったりするわけではありません。

株式投資をするには、大きく2つの目的があります。1つは、株式の値上がり益（キャピタルゲイン）を得ることです。株価は日々変動しています。自分が買った時点よりも、高い値段で売ればキャピタルゲインが得られることとなります。

2つめは配当金です。多くの企業は1年に1回、収支決算をします。そのときに出た利益を株主に分配するのが配当金です。

預貯金よりも魅力的に見えますが、預貯金と異なり損をするケースもあります。利益が上がらなると配当は出ないし、利益が出ていても株価が上がらずキャピタルゲインが得られないこともあります。とはいえ、のるかそるかのギャンブルでもありません。

銀行預金が低金利の時代は、株主になることは「より積極的な財産運用をする」といったところでしょう。



株式の上場とは

学習のポイント

POINT ① 証券取引所による厳密な審査を経た優良企業だけが上場できる。

POINT ② オーナー会社などは大企業であっても上場しないケースがある。

一般の人が売買できる株式は公開されている株式です。公開とは、文字通り、会社を一般の目にさらし、この株式は誰でも買うことができますと宣言することです。公開の1つの方法に上場があります。

上場とは、証券取引所で株式が取引されることをいいます。証券取引所は、どのくらい利益が出ているか、将来性はどうか、などの観点から企業を審査し、承認してはじめて株式市場に上場させます。

上場市場には、証券取引所による厳密な審査をクリアした、優良な会社だけがラインナップされるわけで、会社にとって上場は一流企業へのパスポートといえるでしょう。

上場すると、企業は、新たな株式を発行することで資金調達がしやすくなったり、金融機関などの信用度が増して借金がしやすくなったり、社会的な信用度も上がり、人材も集めやすくなる、などのメリットがあります。

とはいえ、サントリーのようなおなじみの大企業でも、上場をしていない会社があります。上場するかどうかは、各企業の自由なのです。

たとえば、朝日新聞社のようなマスコミの会社は大企業で有名であっても、上場していない会社がほとんどです。それは、報道の自由が守れない恐れがあるからです。上場すると、キャピタルゲイン目的の投資家だけでなく、多くの株を買い占めて経営に口を出そうとする株主も出てくる恐れがあります。

同じ理由から、社長一族が株式の大半を持っているオーナー企業も上場しないケースが

多くあります。

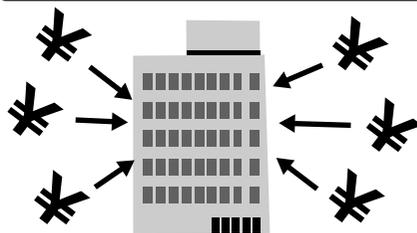
上場している会社を上場企業、上場していない会社のことを非上場企業と呼びます。

現在は従来の東京や大阪の証券取引所などに加え、ジャスダック証券取引所（旧店頭市場）さらには、東証マザーズ、ヘラクレスなどベンチャー企業を専門に扱う新興市場も登場しました。

●上場会社と非上場会社

上場のメリット

- ・株式による資金調達がしやすくなる
- ・社会的な信用ができる



<非上場の理由>

- ・オーナー企業は他人に経営について口を出させないため
- ・マスコミなどは報道の自由を守るため